

平成23年度学習状況調査 結果の概要

平成24年3月
義務教育課

平成23年度学習状況調査について

【今年度の結果概況】

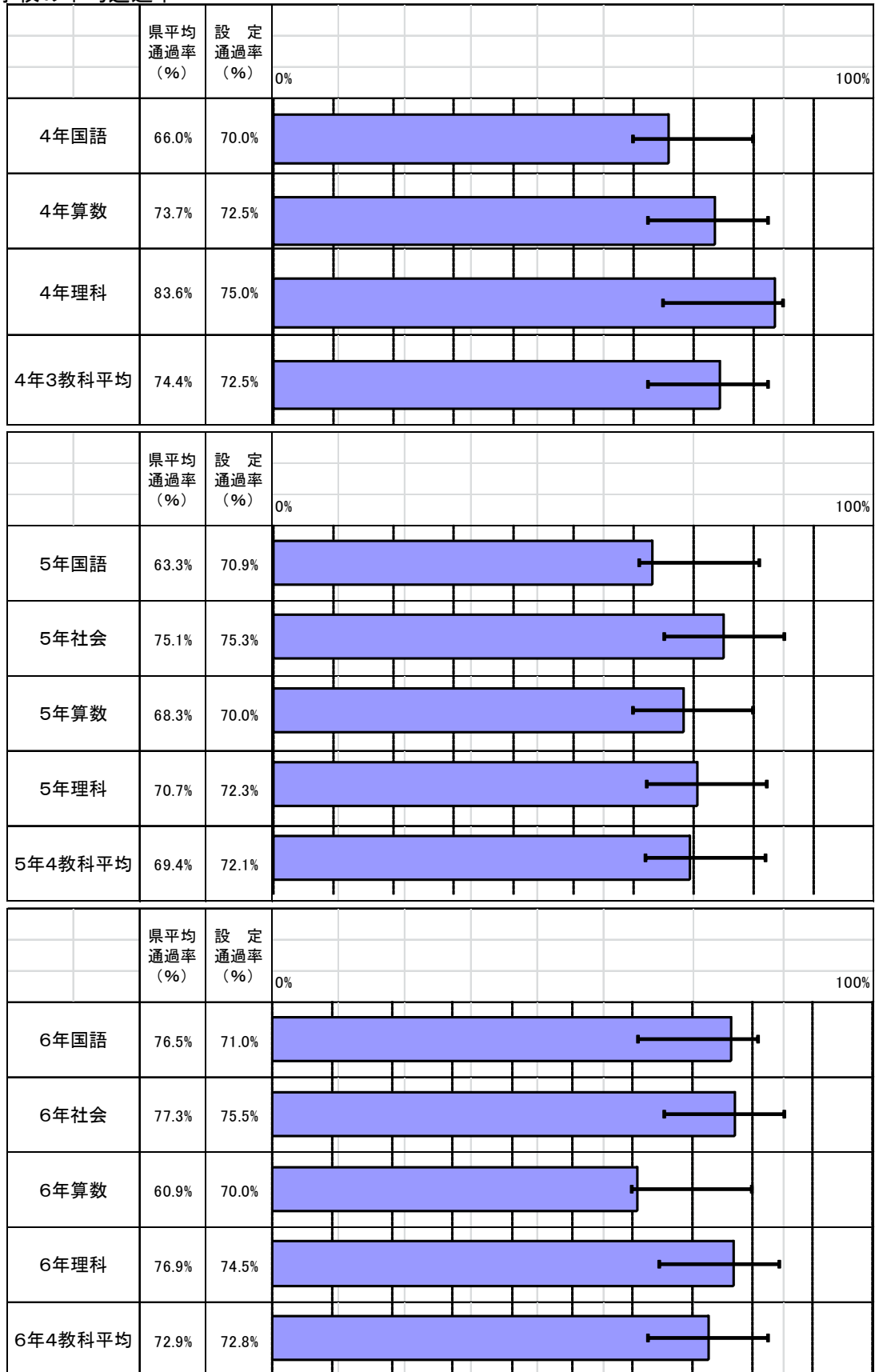
- ・本県の学力状況は、おおむね満足な状況であり、特に小学校は良好な状況である。中学校においては、設定通過率より高い通過率となった学校が増えてきているが、全体として理数教科に課題が見られる。
- ・学習に対する意欲は、昨年度に引き続き、高い肯定的反応を示しており、特に中学校において改善傾向が見られる。
- ・教科の学習が好きと答えた児童生徒は、例年と同様の結果であるが、小学校において、肯定的反応が昨年度より下回る教科もあった。

【昨年度からの変更点】

- ・学習意欲等に関するアンケートに、「生活全般について」「授業について」の項目を追加した。これらは全国調査と共通の項目であり、本調査でも集計することにより、全国調査対象外の学年の状況把握や異なる実施時期での結果比較など詳細な分析が可能になった。
- ・学力向上支援Web上の学習状況調査集計・分析システムに加えて、個人票印刷ソフトを作成したことにより、個人票が一枚で印刷可能となり、児童生徒が自分の学力を総合的に把握できるようになった。

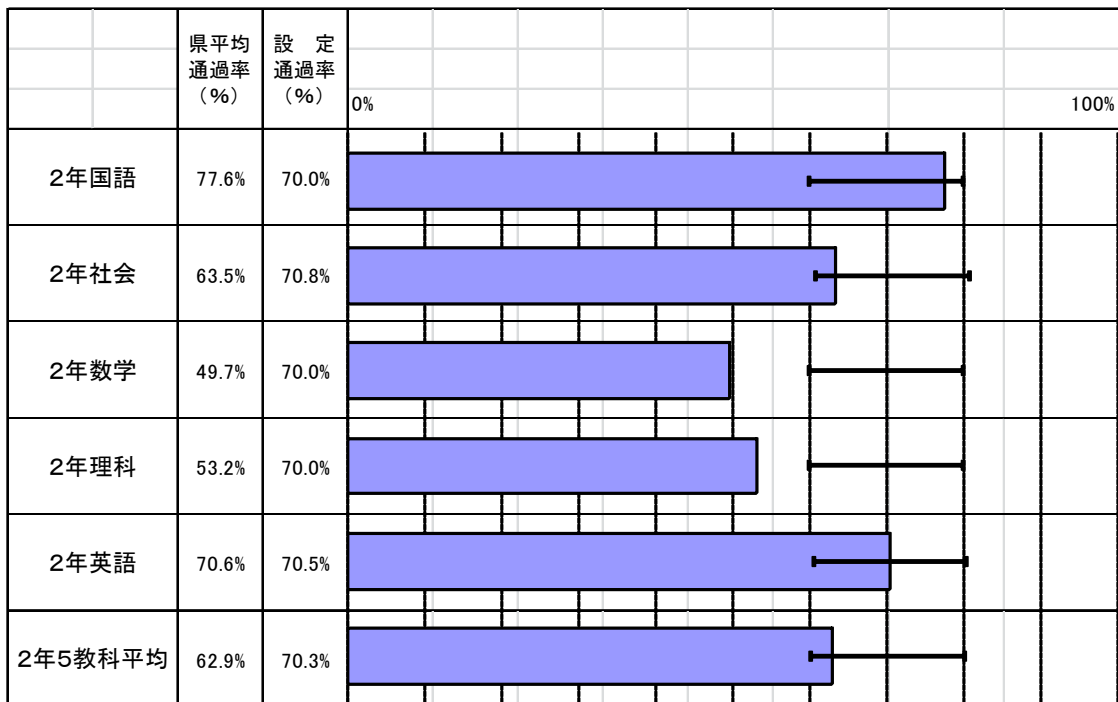
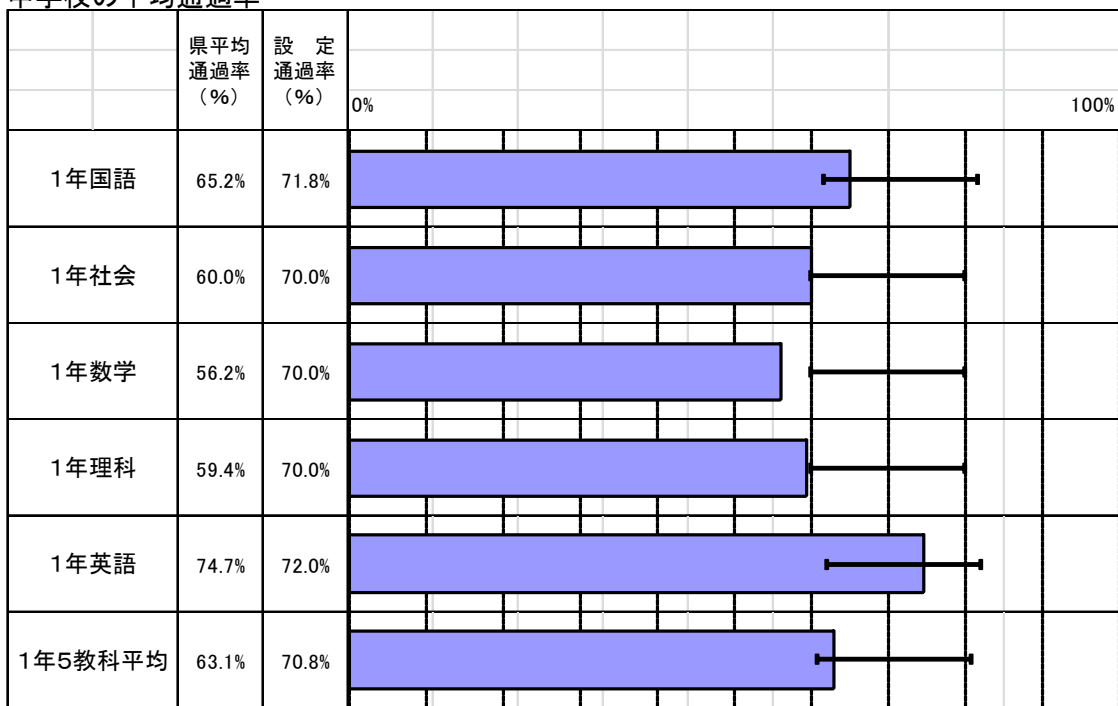
1 ペーパーテストの結果

(1) 小学校の平均通過率



本年度から新しい学習指導要領が全面実施となり、過去の類似問題の出題数が減少したり、読解力を問う内容が増えたりしたことにより、本年度は平均通過率が設定通過率を下回る学年・教科もあったが、全ての学年、教科で設定通過率-10%のラインを上回っており、おおむね満足な状況にある。

(2) 中学校の平均通過率



国語と社会、英語は設定通過率-10%のラインを上回っており、おおむね満足な状況であるが、数学と理科は平均通過率が設定通過率を大きく下回っており、課題となっている。

(3) 設定通過率との比較

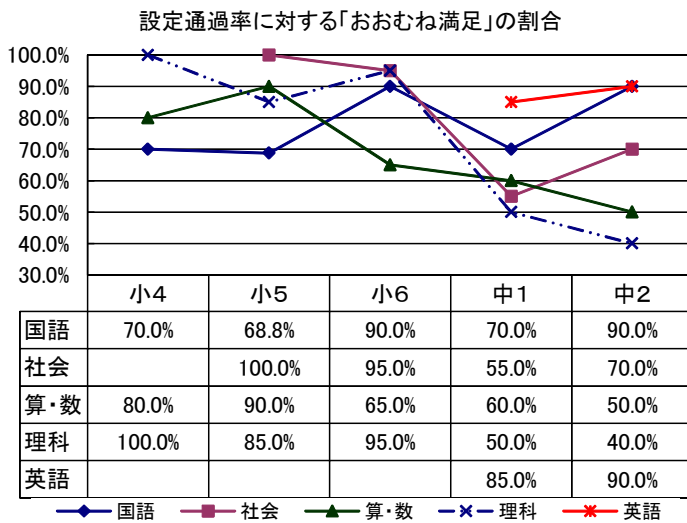
設定通過率の+10%を超えるか同程度(設定通過率±10%の範囲内)を「おおむね満足」な状況とする。

「おおむね満足」な状況である設問数の総計・割合		
396問中300問	75.8%	

小学校 85.7% (196問中168問)
 中学校 66.0% (200問中132問)

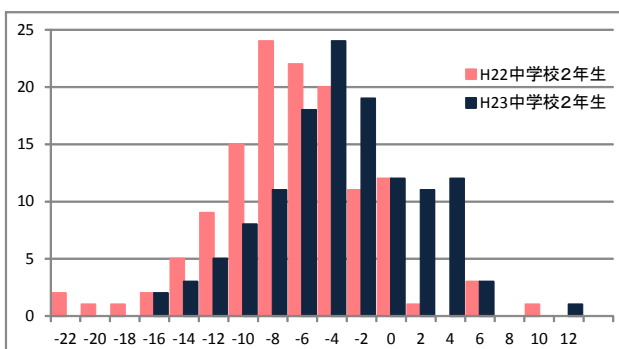
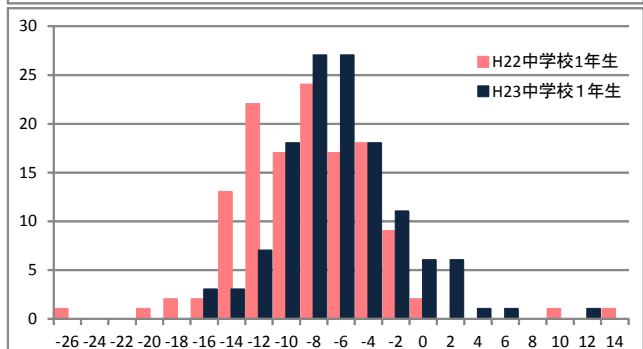
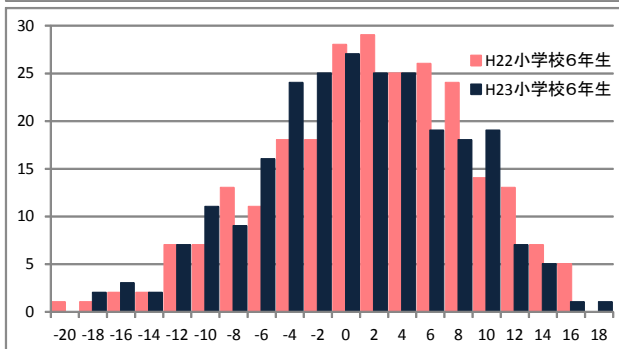
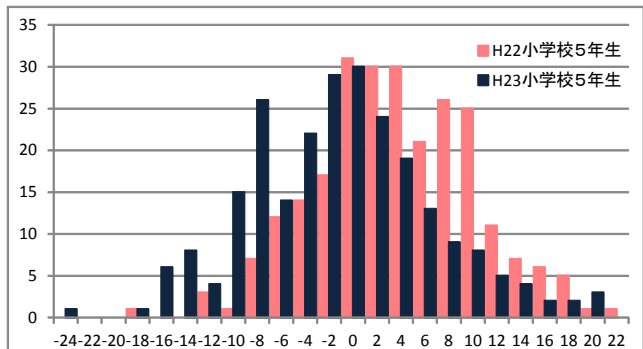
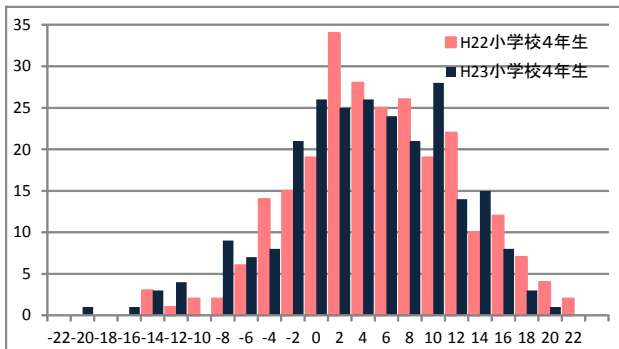
学年・教科ごとにみると、国語と英語は学年間であまり差はないが、社会と理科は小6から中1で、算数は小5から小6で大きく数値が下がる。

特に中2の数学と理科では、設問の半数以上が設定通過率より10%以上回っており、課題が見られる。



(4) 学力の定着度別学校数

設定通過率の平均との差でみた学校度数分布(2か年比較)



小学校では、昨年度に比べて、設定通過率に達しなかった学校数がやや増加した。特に小5では、設定通過率を8ポイント以上下回る学校が増えた。

中学校では、昨年度と比較すると、設定通過率より高い通過率となった学校数がやや増加し、改善傾向が見られるが、依然として全体的に通過率が低く、課題が見られる。

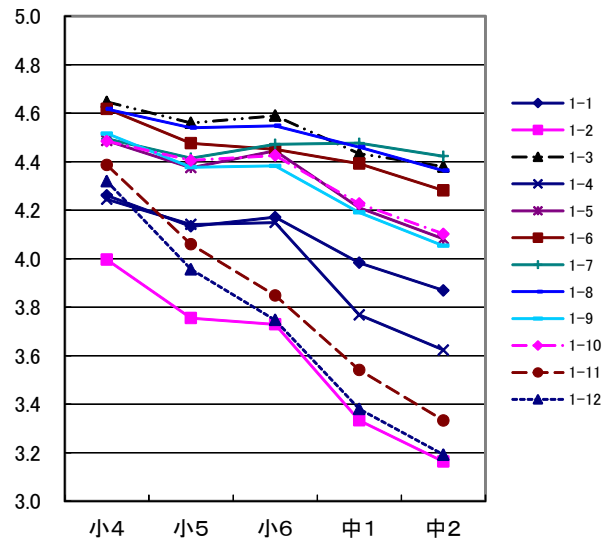
2 学習の意欲等に関する質問紙調査結果

(1) 学習全般についての結果概要

調査項目

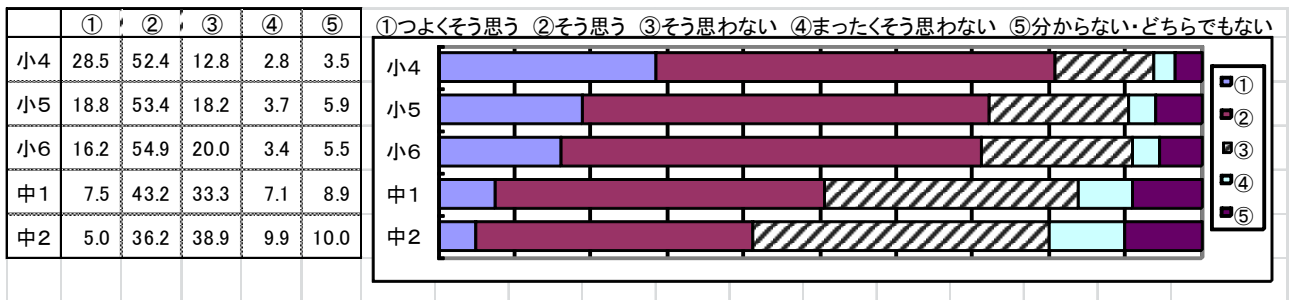
- 1-1 学校が好きだ
- 1-2 勉強が好きだ
- 1-3 勉強は大切だ
- 1-4 学校の勉強がよく分かる
- 1-5 勉強は受験に関係なくても大切だ
- 1-6 よい成績をとれるよう、勉強したい
- 1-7 受験に役立つよう、勉強したい
- 1-8 自分の好きな仕事につけるよう勉強したい
- 1-9 分からないことでも自分の力で答えを見つけられるよう、勉強したい
- 1-10 ふだんの生活や社会に出て役立つよう、勉強したい
- 1-11 家族にほめられるよう、勉強したい
- 1-12 先生にほめられるよう、勉強したい

5点換算による県の平均

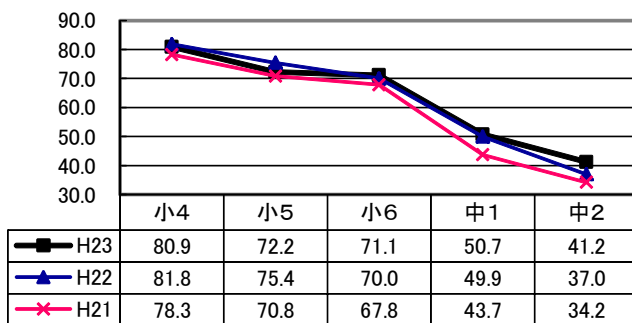


つよくそう思う…5点 そう思う…4点 そう思わない…2点 まったくそう思わない…1点 分からない・どちらでもない…3点

[勉強が好きだ]



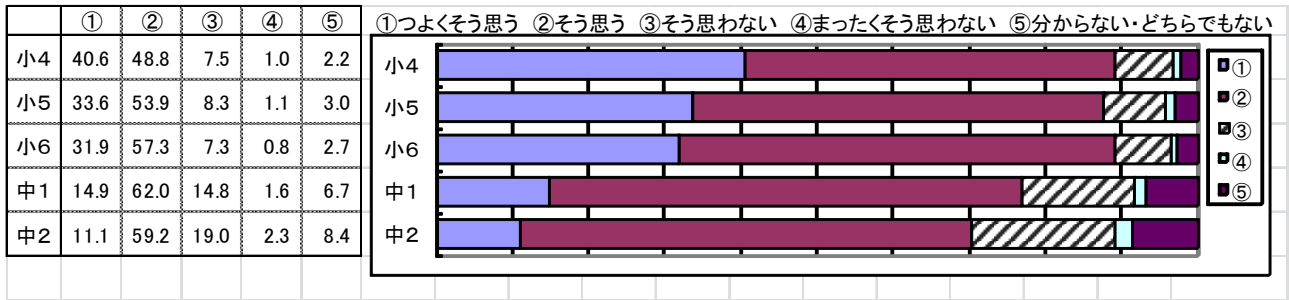
「つよくそう思う」「そう思う」の割合



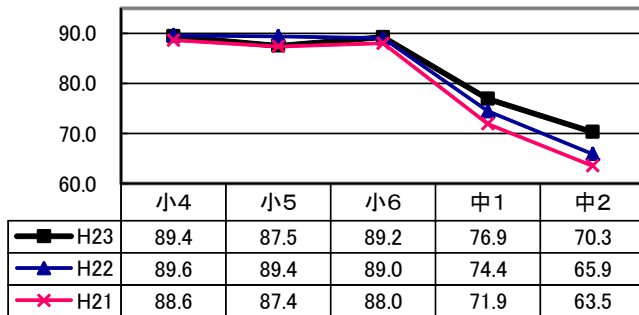
肯定的反応の割合は、昨年と比べて小4と小5で減少したが、他の学年はH21以降最高の数値となった。

学年進行とともに減少する傾向はこれまでと同様であるが、H21に比べ中1と中2が7ポイント高く、中学校で改善が見られる。

[学校の勉強がよくわかる]



「つよくそう思う」「そう思う」の割合



小学校ではほぼ9割が肯定的な回答であり、「つよくそう思う」児童の割合も小4から小6にかけて減少は少ない。

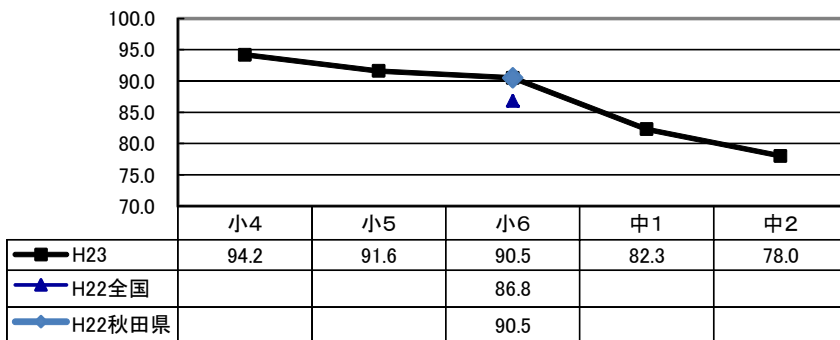
小6から中1にかけて「つよくそう思う」児童生徒の割合が半減し、中2では1割程度に落ち込んでいる。しかし、中学校において、肯定的反応の割合は3年連続で増加し、7割以上の生徒が「つよくそう思う」「そう思う」と答えており、改善傾向が続いている。

(2) 生活全般について

[将来の夢や目標をもっている]



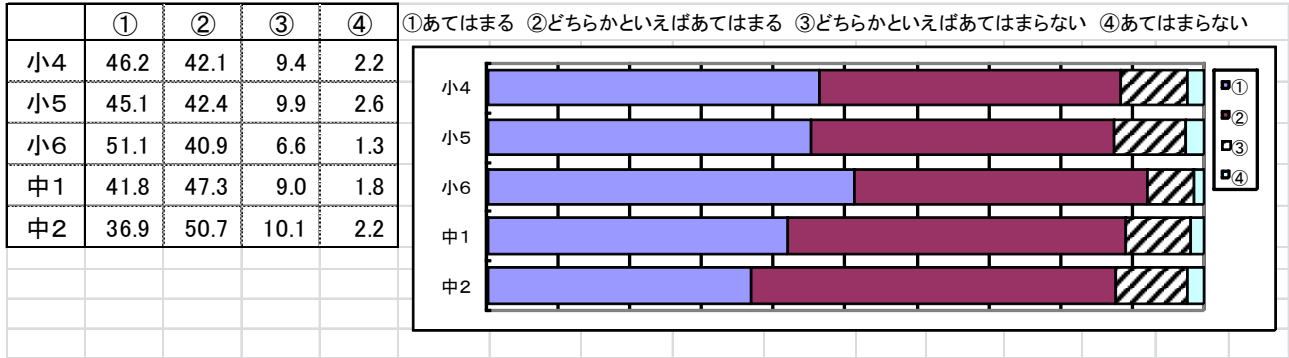
「つよくそう思う」「そう思う」の割合



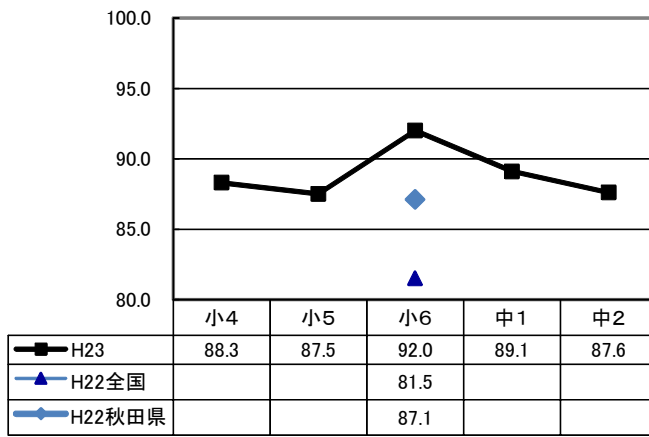
肯定的反応の割合は、学年進行に伴って減少する傾向にあり、特に小6から中1にかけて約8ポイント程度下がる。小6では、全国平均と比較して、2.7ポイントとやや高い。

(3) 授業について

[ふだんの授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思う]



「つよくそう思う」「そう思う」の割合

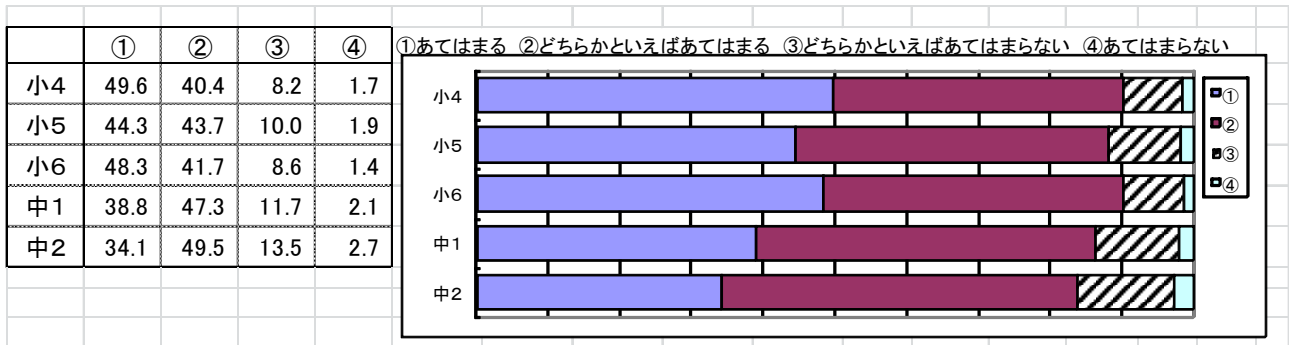


肯定的反応の割合は、全ての学年でほぼ9割と高い数値となった

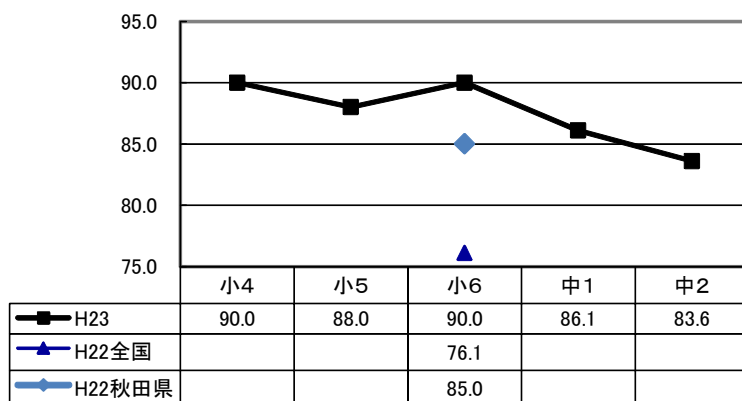
小6では、全国調査の数値より10ポイント程度高くなっており、ふだんの授業において、自分の考えを発表する機会が確保されていることが示されている。

また、H22秋田県小6とH23中1を比較すると、2.0ポイント増加している。

[ふだんの授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っている]



「つよくそう思う」「そう思う」の割合



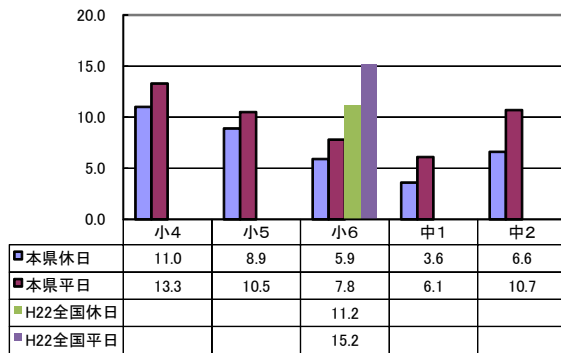
肯定的反応の割合は、全ての学年で8割以上と高い数値となった。

小6では、全国調査の数値より10ポイント以上高くなっており、ふだんの授業において、学級の友達との間で話し合う活動がよく行われていることが示されている。

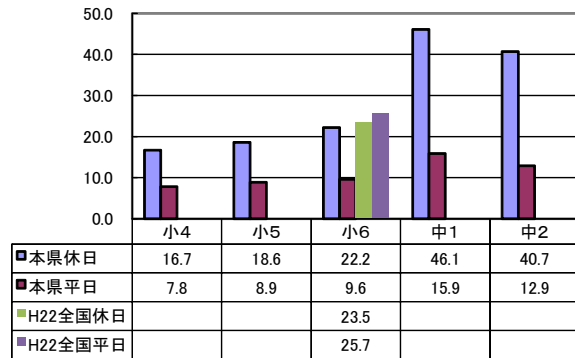
また、H22秋田県小6とH23中1を比較すると、1.1ポイント増加している。

(4) 家庭学習時間について

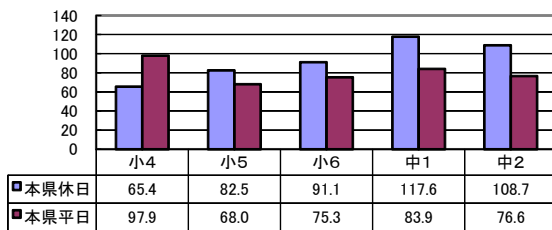
全くしない、または30分未満の割合



2時間以上の割合



家庭学習の平均(分)



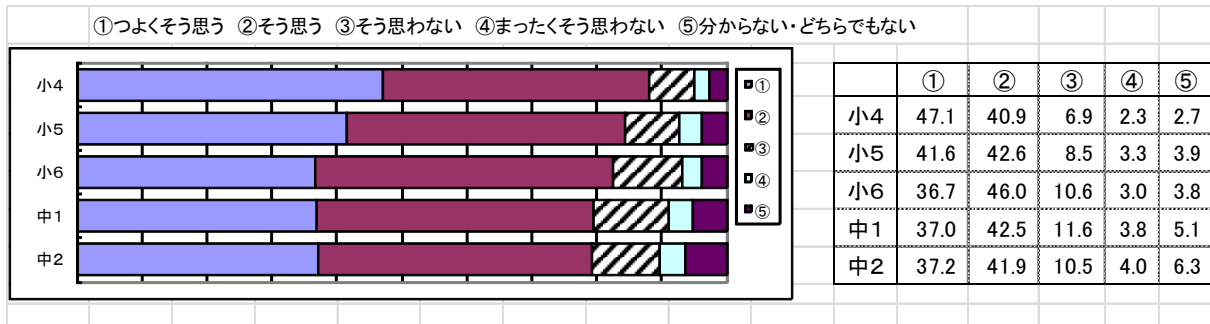
家庭学習を全くしない、または30分未満の割合はほとんどの学年で少なく、特に小6の本県の児童生徒は、全国平均より10ポイント程度少なく、家庭学習の習慣が身に付いていることがうかがえる。

2時間以上の割合は、中学生になると大きくなっており、4割以上の生徒が休日に2時間以上の学習をしている。全国平均との比較では、小6の平日2時間以上学習している児童の割合は、16ポイント程度少ない。

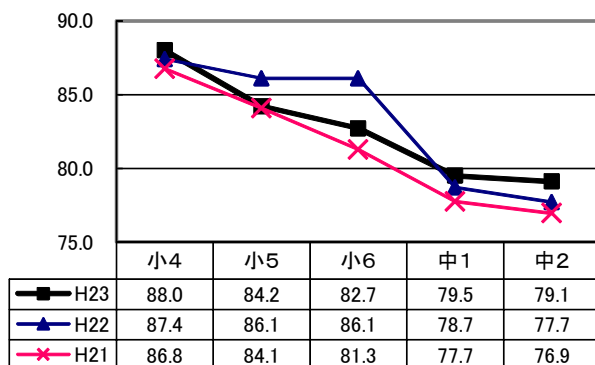
休日の家庭学習時間の平均は中2で108.7分であり、昨年度より13分減少(H22は121.7分)減少した。

(5) 読書について

[読書は好きだ]

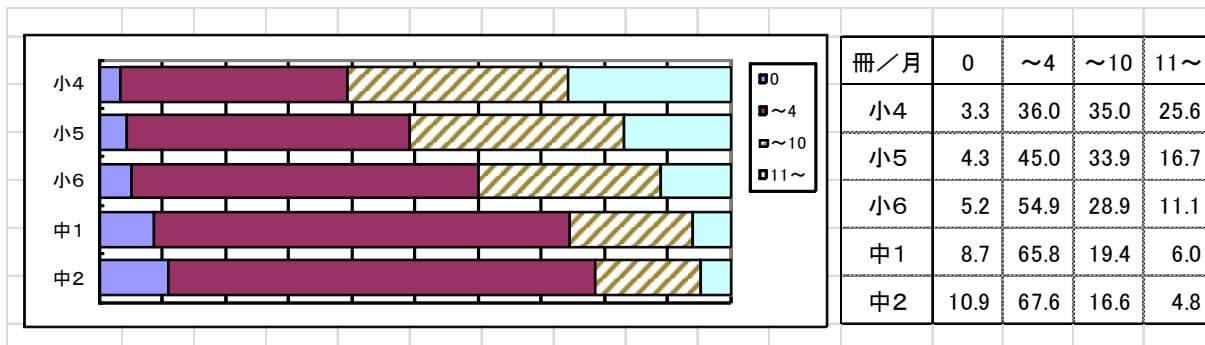


「つよくそう思う」「そう思う」の割合

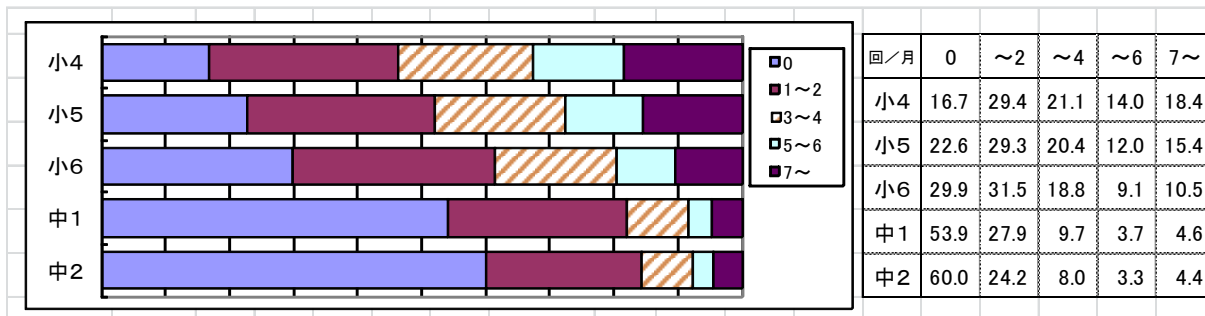


読書が好きと回答した児童生徒の割合は、昨年度より小5と小6で減少し、中学校では増加した。H22小5からH23小6は、3.4ポイント減少している。H22中1からH23中2では0.4ポイント増加している。1か月に読む本の冊数について、全ての学年でほぼ9割の児童生徒が、1冊以上の本を読んでいる。特に、小学校では、児童の3割以上が1か月に5冊以上の本を読んでいる、読書習慣の定着がうかがえる。図書館の利用回数は学年進行とともに減る傾向があり、特に中学生になると半数以上が月に1度も図書館を利用していない。

[1か月に何冊くらい本を読むか（教科書・学習参考書・マンガ・雑誌や付録は入りません）]



[1か月に何回くらい図書館を利用するか]



3 調査結果の活用と課題への対応

(1) 調査結果および報告書の送付

12月の調査実施後、学習状況調査集計・分析システムを活用することにより、全県の集計データを1月中旬に学力向上支援Webに掲載した。各学校、各市町村教育委員会ではそのデータを閲覧し、自校と県平均との比較グラフなどをダウンロードするなどして活用している。本年度は、児童生徒の個人票が1枚で印刷できるようソフトを作成し、配信した。また、各教科等の考察を加えた報告書を2月下旬に配信した。

(2) 教科に関する課題

小学校において設定通過率に達しなかった学校数が増えたことについては、新学習指導要領の全面実施にあたり、読解力や表現力が本県の目指す状況に達していないことが考えられる。

また、中学校では、昨年度と比較して設定通過率を超えた学校数が増加し、改善傾向が見られる。また、質問紙の結果にも、生徒の学習意欲の高まりや授業改善が進んでいることが表れている。しかし、全体的に通過率が低く、特に数学・理科については、基礎的・基本的な学習内容の定着や計算方法の意味理解が不十分な面が見られる。

(3) 平成23年度における改善の手立て

・学校訪問による指導

全国学力・学習状況調査の結果分析による各校の課題への取組と学習状況調査による検証を支援するため、各学校の要請に応じ、学力向上推進班が中心となり、各教育事務所・出張所と協力して、12月～2月に算数・数学、理科及び国語を中心とした授業改善のための学校訪問等を8回実施した。

・県の課題の提示と補足的な指導の実施

県は、各校に対し、本調査結果等から取り組んでもらいたい課題を各学年・教科ごとに1～2問提示する。各校は、これに独自の分析から明らかになった課題を加え、達成目標を含む指導計画を作成して年度内に児童生徒の課題改善のための補足的な指導を行うこととする。

・来年度以降の授業改善に向けた取組の報告

各市町村教育委員会および各学校においては、本調査結果を基に、今年度の取組とその成果を分析し、来年度以降の授業改善に向けた方策を3月中にまとめる。

(4) 平成24年度の取組

○学校訪問による指導

全国学力・学習状況調査及び本調査の結果分析による各校の課題への取組と検証を支援するため、各学校の要請に応じて学力向上推進班が中心となり、各教育事務所・出張所と協力して、算数・数学および理科の授業改善のための学校訪問等を実施する。

4月の全県指導主事等連絡協議会において、学校訪問の際の指導・助言に関し、共通理解を図る。

- ① 文章全体を読んで内容を捉える指導に一層力を入れて読解力の向上を目指し、活用を生かす。
- ② 理数教科について、必要に応じて既習事項の学び直しの機会や誤答分析の場を設定するなどして基礎学力の定着を図り、思考力の向上を目指す。
- ③ 学力向上支援Webから発信した教育情報を、学校で積極的に活用するよう呼びかける。

6、7月の指導主事訪問、所長訪問の際にも、授業改善のための検証改善サイクルの重要性について説明する。

○事業による取組（平成24年度予算（案）に計上）

・学力向上推進事業

① 学力向上支援Web活用

基礎的・基本的内容の定着を図るため、単元評価問題をWebで配信し、各学校の授業改善の支援を行う。

② 理科支援員配置

観察・実験等理科授業の充実等のため、退職教員等の教員免許保有者や学生を配置し、授業支援を行う。

③ 観察・実験指導力向上講座

小学校教員の観察・実験等の指導力を向上させるため、必要に応じて出前講座による研修を行う。

④ 理数探究体験セミナー

理数系の進路に夢や希望を抱く人材の育成を目指し、学習意欲の向上を図るため、児童生徒に思考力・表現力等を伸ばす探求活動の体験をさせるセミナーを実施する。

・あきたの教育力発信事業

検証改善委員会を設置して全国学力・学習状況調査の結果等を分析し、学校改善支援プランを作成して教育指導に係る提言を行う。

一層の学力向上を図るため、小・中学校の授業を公開し、県内外の教育関係者によるパネルディスカッションを行うなどする学力向上フォーラムを開催する。

・あきた発！英語コミュニケーション能力育成事業

社会で必要とされる英語力を育成するため、英語教員の指導力向上を図る研修を実施するとともに、児童生徒のコミュニケーション能力育成につながるよう、Webで海外中学生との交流活動、スピーキングテスト等を行う。